



佐藤 洋介

SATOU YOUSUKE

1985年 柏崎市出身
2012年 巻古典ギター同好会で活動を始める

柏崎音楽商店街「音市場2019」が今秋も開催される。本町通りを中心とした16の会場でジャズやロック、クラシック、ダンスなど様々なアーティストによる演奏やパフォーマンスが繰り広げられる毎回楽しみなイベントだ。

一昨年秋から2回目の出演となる「巻古典ギター同好会」は旧巻町で40年ほど前に発足。クラシックギターの合奏を基本スタイルとして、定期演奏会など新潟市内を拠点に様々な演奏活動を行っているグループだ。

この同好会に7年前から籍を置く佐藤洋介さんは、自身の地元、柏崎市で演奏できる機会としてメンバーに声を掛け、音市場での演奏が実現したと嬉しそうに話す。

佐藤さんとギターとの出会いは高校時代。当時はアコースティックギターやエレキギターにはまっていた。大学時代にクラシックギター部に入部したことでギター合奏の奥深さに夢中になった。独学で作曲や編曲もしていたそうだが、就職後は休日を利用して東京の作曲スクールに通い、音楽理論や作曲、編曲の方法などをより深く学んだという。

大学時代のOBや有志などで今も演奏会を行なうことがあるという佐藤さん。巻古典ギター同好会では、ギター演奏はもちろん、作曲や編曲を手掛ける役割も担っている。

ギター合奏は、メロディー、伴奏、ベースなど曲によって演奏パートを分け、時にはパーカッションを加えることもある。曲目もクラシックだけではなくポップスや民謡、ワールドミュージックなど様々なジャンルに対応可能だ。佐藤さんは「どんなジャンルでも、ギターならではの表現や音色の魅力を感じてもらえるような作曲、編曲を心掛けている」という。例えば、ギターの響き・奏法を生かした独特なフレーズを加えたり、音の重ね方を工夫したり、といった具合だ。クラシックギターは自分の爪で弾く楽器。弦に当てる爪の角度と量でつま弾いたりかき鳴らしたりと表現の幅は自在に広がる。「クラシックギターの音色の美しさ、表現の幅は飛び抜けている」と続ける。さらに、作曲や編曲を自分たちで行なっているため曲の構成や音の入れ方も自由にできることが彼らの強みで「音楽的にかなり攻めたこともしている」とほほ笑む。

練習や演奏活動は通常、旧巻町を拠点にしているため、忙しいとなかなか通うことが難しい時もある。佐藤さんにとって地元開催の音市場ならば職場の人たちや友人にも気軽に声を掛けて演奏を楽しんでもらえることができるし、お客さんからの応援や反応など勉強になることは多いと、メンバーも音市場で演奏できることを心待ちにしている。



お問い合わせ

柏崎音楽商店街音市場・2019

2019.9.29(日) 11:00 START

まちなか16会場

全会場フリーパス券 前売 1000円 (中学生以下無料)